

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年9月10日

枚方市立招提中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の平均正答率(対全国比)をお知らせします。

令和6年度 平均正答率 対全国比		国語	数学
招 提	中学校	非公表	非公表

<学力調査結果の概要>

○国語について

学習指導要領の内容において、知識及び技能では、「我が国の言語文化に関する事項」に成果が見られる一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られました。また、思考力、判断力、表現力等では、「話すこと・聞くこと」及び、「書くこと」について成果が見られる一方、「読むこと」について課題が見られました。

また、問題の概要別では、「物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する」に成果が見られる一方、「本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する」について課題が見られました。

○数学について

学習指導要領の領域において、「関数」について成果が見られる一方、「図形」について課題が見られました。

また、問題の概要別では「正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める」について成果が見られる一方、「18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する」について課題が見られました。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

○問題の概要

話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く

○実際の問題

【話し合いの一部】の山岡さんの発言を受けて、あなたならどのような考えをのべますか。次の条件1と条件2に従って、実際に話すように書きなさい。

○考察

話の内容をとらえつつ、あなたならどうするかという自分の考えをまとめる問題です。
授業の中で文章の内容を捉えた後、あなたならどう考えるかなどをまとめる課題を取り組んだ成果が表れたように思われます。

○問題の概要

短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える

○実際の問題

田中さんは、AからCまでの短歌によまれている条件の時間帯が異なることに気付きました。一線部①、②、③に着目して、夕方から翌朝へという時間の流れに沿って、順番に並び替えるとどのようなになりますか。

○考察

短歌の内容を描写から捉える問題です。
短歌や俳句は授業の中で一つの作品について自分で考察し、理解を深める取組を行いました。それをさらにグループで発表した結果が表れていると思われます。

数学科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

○問題の概要

車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する

○実際の問題

前ページの10cmの位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。

○考察

箱ひげ図は、第2学年時の最後に学習した内容です。普段見慣れない図ですが、グループ学習において、じっくりと話し合いながら学んだことで定着したものと考えます。

○問題の概要

点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する

○実際の問題

桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ=PB$ になると予想しました。桃子さんの予想した $AQ=PB$ がいつでも成り立つことは、 $QAC \cong BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ=PB$ になることの証明を完成しなさい。

○考察

図形に関しては、普段からICTを活用し、視覚的に捉えることを意識して学習しました。また、それを踏まえてグループでの話し合いを通し、より理解を深めた成果が出たと考えます。

質問紙調査の結果

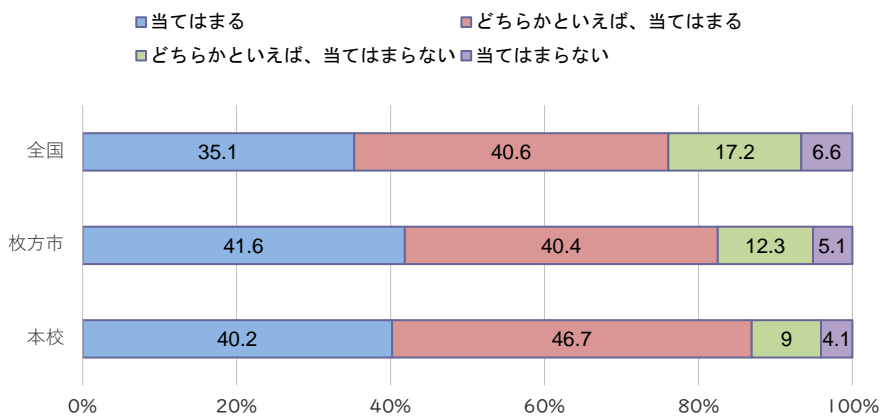
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【特徴が見られた項目】

質問項目 ～数学の授業の内容はよく分かりますか～



○考察

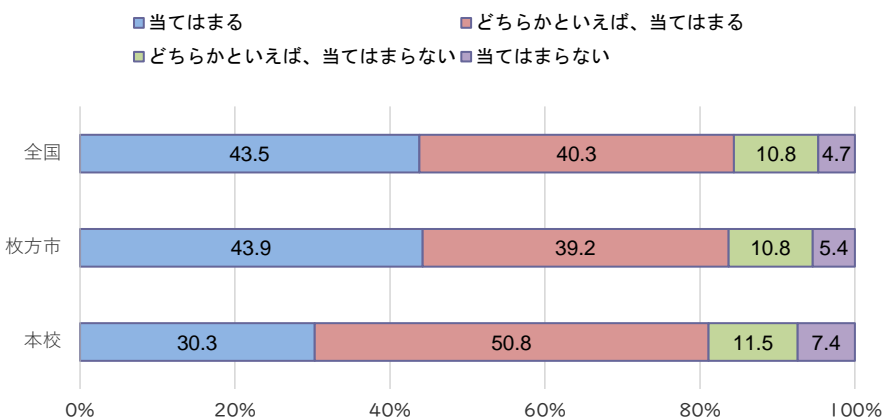
“当てはまる” “どちらかといえば当てはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は86.9%で、対全国比で+11.2ポイント、対枚方市比で+4.9ポイントでした。

そして、質問項目～数学の勉強は好きですか～においても、肯定的回答の割合が69.7%で、対全国比で+12.5ポイント、対枚方市比で+9.3ポイントでした。

また、過去5年間の数学における正答率の対全国比は年々上昇しており、令和元年から0.18ポイント上昇しています。

子どもたちが、「わかった、できた。」と実感できる授業の実践と子どもたちの実態に応じたこれまでの授業改善の取組が結果として表れたと思います。

質問項目 ～学校に行くのは楽しいと思いますか～



○考察

“当てはまる” “どちらかといえば、当てはまる”と肯定的な回答をした子どもの割合は、81.1%で、対全国比で-2.7ポイント、対枚方市比で-2.0ポイントでした。また、“当てはまる”と強い肯定的な回答をした子どもの割合は30.3%で、対全国比で-13.2ポイント、対枚方市比で-13.6ポイントでした。

過去3年間の本校における肯定的な回答の割合を見てみると、令和5年度は86.2%、令和4年度は85.2%であり、令和6年度が最も低い割合となっています。

今後も子ども一人一人が個性を発揮でき、その良さを認め合える関係づくりに資する教育活動の充実に取り組んでまいります。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- ・学力向上委員会を中心に、日ごろから授業改善（日々の授業観察、教科部会、校外研修、校内研究授業など）の取り組みをさらに推進していきます。
- ・今年度から、「自他を大切にし、自ら考え、自ら学び、予測困難な時代を生き抜く心豊かでたくましい子どもの育成」の実現をテーマに、追手門学院大学 高等部・中等部との提携により、招提中校区（招提小・平野小）として、授業改善に取り組んでいます。
- ・授業の基本形態として、ペア・グループ学習などの活動を取り入れ、様々な意見に触れ、自分の考えを生み出すような指導方法の改善を図っています。
- ・生徒の皆さんの自尊心を高めるため、授業時の小さな成功を積み重ねていくような授業を行っていきます。
- ・個別指導の充実を図り、全体的な学力の底上げを行ってしています。（グループ学習時の個々への丁寧な指導など）
- ・生徒の皆さんの学習への興味・関心・意欲を深めるため、ICT活用の推進を図り授業の中に取り入れています。
- ・朝読書を行うことにより、たくさんの文章や言葉に触れ、学習の基礎となる「読む力」や「書く力」の育成を目標としています。また、学校図書館等を活用した読書活動の取り組みを推進しています。

(2) 家庭学習について

- ・自主学習ノートに取り組むことにより、家庭学習に対する意欲を高めることを目標としています。また、校区小学校（招提小・平野小）とも連携を取ることで、小中学校9年間を通しての定着をめざしています。
- ・生徒の皆さんが興味を持って予習、復習等に取り組むための教材の研究を行ってしています。（自己研鑽、教員交流、研修等）
- ・放課後自習教室を活用し、生徒の皆さんの自主的な活動を促し、教員による丁寧な個別指導も行っています。